

休館中の取り組み

新しい一歩も

報告1

まなびの場づくり

横須賀市生涯学習センター「まなびかん」との協働

国内外で活躍するゲストスピーカーを招いたトークショーや、当館学芸員が地域ゆかりの作家や所蔵品の魅力を詳しくお伝えする連続講座を開催しました。

・トークショー「**美術館と地域デザイン**」(横須賀市市民大学特別講座) 3/14
ゲストスピーカー：永山祐子(建築家)

保坂健二郎(滋賀県立美術館ディレクター)

ファシリテーター：齋藤精一(パノラマティクス主宰)

クロストークスピーカー：富田康子(当館学芸担当課長)



・連続講座「もっと知りたい横須賀美術館」(横須賀市市民大学)

「導入編 建築・デザイン・コレクション」4/22

「横須賀ゆかりのアートへの誘い」(全7回) 5/13～7/29

報告2

学芸員の出張授業

対話鑑賞会 3/25

横須賀総合高校の美術部有志の皆さんと、作品を見ながら対話鑑賞を行いました。今後も、横須賀市内の高校などで出張授業を実施していきます。



みんながみんな
着眼点が違うので
視野が広がって
おもしろい。

普段は絵画は一人で
鑑賞していたので、
意見を共有する事が
新鮮だった。

解説がない状態で
作品について考える機会は
あまり無かったので少し難しく
感じたけど良い経験ができて
良かったです。

参加者の感想

再オープン記念イベント



ミュージアムトーク

トーク

再オープンの最初の一歩： 館内ツアーとミニレクチャー*

日時：9月5日(土) 14:00～15:30

講師：富田康子(当館学芸員)

場所：ワークショップ室

トーク

島田章三—もうひとつの形びと—*

日時：9月20日(日) 14:00～15:30

講師：木本文平(碧南市藤井達吉現代美術館 館長)

場所：ワークショップ室

トーク

アートを「問い」、対話を「紡ぐ」 哲学者、アーティスト、教員と深める ミュージアムでの鑑賞*

日時：9月23日(水・祝) 14:00～2時間程度

トークセッション スピーカー：

清水将吾(哲学者、多摩美術大学リベラルアーツセンター准教授)

近森基(アーティスト、デザイナー)

杉戸美和(横須賀教育研究所 所長)

場所：ワークショップ室

トーク

谷内六郎 これまでとこれから*

日時：10月18日(日) 14:00～

講師：谷内広美(谷内六郎長女)、谷内太郎(谷内六郎長男)

場所：ワークショップ室

約10か月の休館期間中、「海の広場」を生かしたイベントの実施や、美術館以外の会場での講座開催に取り組みました。高校生を対象とした事業など、今後さらに発展させていきたい事業も生まれています。

報告3

「海の広場」活用事業

美術館休館中の観音崎エリアの活性化や地域交流を目的に、「海の広場」でイベントを開催する方を公募し、各種イベントが実施されました。

5月-6月

・バックウォーク(犬の集団散歩会)

・音楽イベント

・オープンアトリエ

・おえかきイベント[雨天により中止]



その他

休館中も当館ならではの活動を継続しました。

・「第78回児童生徒造形作品展」の開催(共催/会場:横須賀市文化会館) 1/17～1/25

・谷内六郎ゆかり給食「菜の花サラダ」の提供(対象:市立小・中学校、ろう学校) 4/20～30

・美術館ボランティア すかび隊presents

「飛ばそう!シャボン玉 2026」の実施(会場:海の広場) 4/26

・コンサート「Weekly Welcome Concert in June 2026」の実施(全5回)

(会場:レストラン前屋外スペース) 6/2～6/30

・美術館前面にある**庇下を彩るイルミネーション**の実施 4/16～7/31



池田満寿夫(ハラはハラ)1966年



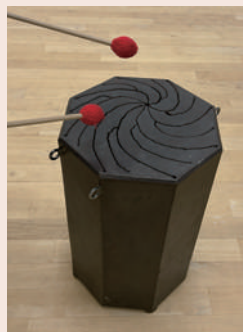
池田満寿夫(ハラはハラ)1966年

展覧会 紹介

再オープン後の所蔵品展・ 谷内六郎展のご案内

令和8年度 第1期 所蔵品展

再オープンを記念して、近年購入、寄贈によって収蔵した作品をお披露目いたします。朝井閑右衛門室では、朝井の友人であり洋画家の大河内信敬が所蔵していた資料を公開いたします。展示室5では1960年代の横須賀を捉えた写真家の北井一夫、森山大道などをあわせて並べます。展示室6は原田和男の音響彫刻に実際に触れて音を奏でられます。展示室7では駒井哲郎、浜口陽三、池田満寿夫の1950～60年代に手がけた版画を、北側展示ギャラリーでは荒川修作、展野登恵子、小林孝亘の絵画を展示し、新たなコレクションの歩みをご案内いたします。また、特集として「丸山純子 呼吸する庭」を併せて開催いたします。



原田和男(フランス)1987年

令和8年度 第1期

谷内六郎展 月のひかり、星のきらめき

『週刊新潮』表紙絵と絵本『びんのそら』より

代表作である『週刊新潮』の表紙絵から、星や月、夜空を描いた作品を取り上げます。また新収蔵作品からは、谷内が文と絵を手がけた絵本『びんのそら』の装丁・挿絵原画をご紹介します。毎日目にする何気ない夜空も、豊かな想像力をもつ谷内の手にかかると、見飽きることのない面白さに満ちていると気づかれます。



絵本「びんのそら」(上製本)1973-74年、至光社

会 期 観 覧 料 主 催 協 賛

2026年9月5日(土)～2027年1月17日(日)
一般450(360)円、高大生・65歳以上350(280)円、中学生以下無料
横須賀美術館
一般財団法人 シティサポートよこすか(所蔵品展)

*身体障害者手帳、療育手帳、または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添の方1名様は無料。

*高校生(市内在住または在学)は無料。

*会期中、一部展示替えがあります

*休館日9月7日(月)、10月5日(月)、11月2日(月)、12月7日(月)、12月29日(火)～1月4日(月)

*所蔵品展・谷内六郎展 無料観覧日 11月3日(火・祝)

横須賀美術館ニュース

NEWS FROM YOKOSUKA MUSEUM OF ART

2026.9
volume.

32

「Corridart」(コリダール)とは、corridor(回廊)とart(美術)の二つのフランス語を合わせた造語です。横須賀美術館地階の回廊型のギャラリーにちなんで名づけられました。

【特集】

横須賀美術館 再オープン!

【展覧会紹介】

再オープン後の所蔵品展・ 谷内六郎展のご案内

【この1点】

谷内六郎

《絵本『びんのそら』装丁・挿絵原画》

【報告】

休館中の取り組み 新しい一歩も

【お知らせ】

再オープン記念イベント

編集:横須賀美術館/令和8年9月発行
デザイン:tegusu Inc.
印刷:ニューカラー写真印刷株式会社
*このニュースは8,000部作成し、1枚あたりの印刷費は約5.1円です
横須賀美術館の情報は公式XやFacebook、Instagram、YouTubeでもご覧いただけます。



この 1点

谷内六郎

《絵本『びんのそら』装丁・挿絵原画》

1972年



© Michiko Tanuchi

谷内六郎(1921-1981)が文と絵を手がけた『びんのそら』は、至光社の月刊保育絵本「こどものせかい」(1972年8月号)で発表された。本作では、夜空が大きなサイダー瓶に見立てられている。勢いよく進む汽車によって瓶の栓が抜かれると、星は瓶の中の泡に、月はレモンへ姿を変え、物語が展開する。天体や時間の移ろいをサイダー瓶になぞらえて描く大胆な発想が、本作の大きな魅力である。

谷内は本作の構想について、「星空に火の子をまいて行く汽車のリズム感」「びんのもつ感覚、とくにあきびんのカラカラした感じ」「サイダーのシュボンという音」に夏らしさを見出して描いたと語っている。谷内ならではの自由な想像力が、身近な夏の記憶を印象的な絵本へと変えている。絵本の発行元である至光社は、1950年に児童雑誌出版社として設立された。至光社の編集責任者であり絵本制作者でもあった武市八十雄(1927-2017)は、「感じる絵本」を目指し、画家や詩人らの感性を生かした、情緒豊かな絵と厳選された言葉が一体となった絵本を数多く世に送り出した。現在も、「0歳から100歳までのすべての子どもたちへおくる」を合言葉に、子どもはもちろん、子どもの心を備えたすべての世代に届ける絵本を制作し続けている。谷内は1960年から「こどものせかい」など至光社の媒体に挿絵を提供するようになり、翌年からは保護者向けの姉妹誌「季刊ひろば」(年4回発行)で、「遠い日のうた画集」と題して絵と詩の発表を始めた(～1977年)。また、「こぼすなにかかりかけ、心の中に多くを残してくれる至光社の絵本」という言葉を至光社に寄せて残しており、同社の絵本づくりの姿勢を深く理解していたことがうかがえる。『びんのそら』も、こうした信念に基づいて生まれた一冊である。

◇令和8年度第1期谷内六郎展で展示されます

横須賀美術館 再オープン

2025年11月から2026年8月までの約10か月間、
横須賀美術館は施設改修工事のため、休館しました。
本特集では、休館中に実施したことや、
再オープンにあたり変わった点をご紹介します。



◎整いました

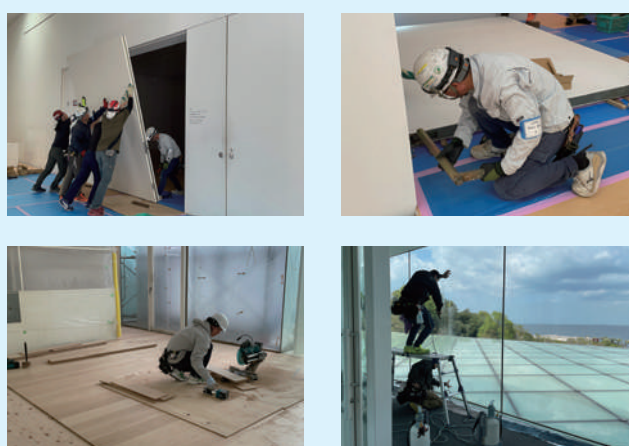
2007年の開館から約19年が経過し、施設各所に傷みが見られるようになっていました。外壁の補修や建具の交換など、さまざまな作業を行いました。

屋外

- 本館展示棟およびバックヤード棟の外壁補修
- 谷内六郎館の外壁および基礎部分の補修
- 本館底など低層屋根部分の防水改修
- 海の広場、屋上などの銅製手すりの補修
- 光庭(中庭)の防水改修、床面ブロックの入れ替え
- ワークショップ室扉など銅製建具、銅製屋外サインの改修

屋内

- 全館監視カメラシステムの改修(屋外も含む)
- レストラン床の張り替え、
- 厨房換気設備の入れ替え、照明のLED化
- 屋上ペントハウス、本館のガラスフィルム一部張替え
- 展示室防火扉の改修
- ワークショップ室の空調増設



見えないところの
点検・改修が
大事なだね!

◎コレクションがもっと身近に

1 所蔵品検索 の充実

横須賀美術館の所蔵品データベースを公開します。ほぼすべての所蔵品について、基本的なデータが閲覧できるようになりました。



美術館ホームページから所蔵品ページへ進み、「所蔵品データベース」(外部サイト)からご覧ください。

2 作品解説を音声でも

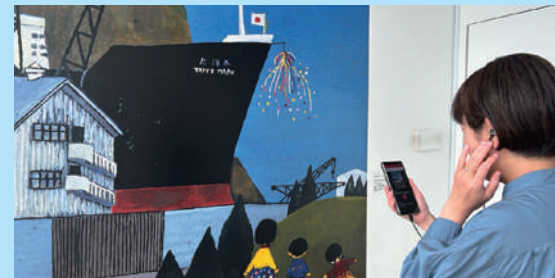
谷内六郎 1921-1981 ドックの祝日

『週刊新潮』1976 (昭和51) 年3月25日号
水彩・厚紙

TANIUCHI Rokuro
Ship Launch Ceremony
1976 water-color on paper

解説がついている作品のキャプションには、「ポケット学芸員」マークが記載されています。手話マークがある場合は、手話による解説動画があります。

お手持ちのスマートフォンで、作家や展示作品の解説を読むことができるアプリ「ポケット学芸員」を、当館では2021年から導入しています。このたび、「ポケット学芸員」の解説に音声データを追加しました。音声で解説を聞きながら、展示作品をお楽しみいただけます。



音声解説は、お手持ちのイヤホンをご使用のうえお楽しみください(イヤホンの貸出は行っていません)。



ダウンロードは
こちらから▼



Google Play



App Store

◎ここが大きく変わりました

美術館にとって、作品を守りながら、皆さまに快適にご鑑賞いただく環境を整えることは大切です。今回の改修では、展示室照明のLED化で作品に影響する光(紫外線など)を抑え、省エネ化を推進しました。あわせて、展示室や収蔵庫内の温湿度を一定に保つため、老朽化した空調設備を更新し、作品の保全と鑑賞環境の両面を整えました。



1 展示室照明のLED化

企画展示室のベースライトはルーバーの上部に設置され、天井に反射した光がやわらかく室内を照らす仕組みになっています。今回、企画展示室や所蔵品展示室、谷内六郎館のベースライトのLED化に併せて、部屋ごとの明るさを調節できる調光システムも更新しました。スポットライトについても、一部でLED化を完了しており、今後も順次更新を進めていきます。



2 空調設備の更新

熱源機の入替えでは、クレーン車による吊り上げ作業を行いました。また、夜間電力を利用してつくった冷温水を蓄えるための蓄熱槽には、防水処理を施し、空調システムの信頼性向上と長寿命化を図りました。

◎便利になります

駐車場は出入口に設置したカメラでナンバープレートを読み取る「カメラ式(ナンバープレート認識方式)」になりました。

出庫前に精算機でご自身の車両ナンバーを入力し、該当する車両を選択して料金をお支払いください(駐車券は発行されません)。



◎こちらも、再開!



図書室

開室時間: 10:00~18:00
休 室 日: 美術館に準じる



レストラン アクアマーレ

営業時間: 10:00~19:30L.O.
定 休 日: 毎月第一月曜日、年末年始
問合せ先: 046-845-1260



ミュージアムショップ

営業時間: 10:00~18:00
定 休 日: 美術館に準じる
問合せ先: 046-842-0125